生涯学習のできる大学に

実験助手　森　千佐子
（平成４年卒）

私は，京都女子大学短期大学部家政科食物専攻食物コースを卒業し，その後三年間，京都市立中学で家庭科の非常勤講師として勤務していましたが，この４月から再び京都女子大学でお世話になっています。

また私は，短期大学部卒業と同時に日本女子大学家政科通信教育課程食物学科に編入をしました。仕事を持ちながら食物の勉強を続けられる所は，日本全国で他にないのです。教職に就いたこともあって勉強を続ける必要性を感じ，編入を決めました。

通信教育部の学習は，リポートと地方各都市で行われる科目試験の両方に合格する事での単位取得と，普通の大学生と同じように学校に通って授業を受けるスクーリングで成立しています。私も夏の１か月間東京に滞在し，何度かスクーリングを受けています。

通信教育部の学生は，住所や年齢，職業が多岐にわたっています。初めて行った時，妊婦やおばあちゃんがいることに驚きました。また，中学高校の家庭科が男女とも必修になったので男性教諭も一緒に勉強しています。仕事や家庭を犠牲にしながら全国から東京のキャンパスに集まる訳ですから，授業中の私語もなく，質問や授業時間外の学習も活発です。スクーリングと京女の授業が違っているなと思うのは，そういう熱心さと，家庭や仕事を持っている学生が多いのでテキストで勉強したことを生活の中に活かそうとする姿勢があることです。専業主婦は，家族の健康の事を考えて勉強されていますし，管理栄養士，教職に就いている人も多く在籍していますが，仕事に活かす事や，今まで経験してきた事と講義・テキストとの関連を常に考えておられます。私自身も短大のときには単位さえ取得出来れば良いと考えていましたが通信編入後は授業に使えないか，日常生活の中ではどうなのかと考え，ただの知識にならないよう努力をするようになりました。通信生には私より年上の方が多いのですが何事にも前向きに，積極的に取り組まれています。私などは周りの人のパワーに圧倒され，勉強させられることが多いです。

家政学は，生活に密着しているものなので生涯学習として勉強したいと考えている人が多くなってきています。家庭科が男女共修になっている事を考えてもその需要は増加しているといえます。その割には，機関が少なく，したくても出来ない人が増えている

ように思えます。京女大でも，もっと色々な年齢や仕事を持った人，卒業生などが勉強したいと思ったときに気軽に授業を聴講できる制度が出来ないものだろうか，と思います。色々な立場の人がいる事は，私が通信で出会う人に刺激を受けるのと同じように，きっと在学生にとっても，良い刺激になる筈です。今年，京女短大の卒業生にスクーリングで会いました。私達のように東京まで授業を受けに行っている者にとっても，とても有り難い制度になると思います。